

乗務員詰所縮小で「休憩難民」に…?

行き場のない乗務員が増えている中、詰所を減築!?

●蒲田駅乗務員詰所の役割と利点

蒲田駅の詰所は京浜東北線の間駅における乗務員の交代拠点として重要な役割を果たしています。大田運輸区の乗務員の他にも横浜運輸区・さいたま運転区の乗務員もこの詰所を利用し、特にホーム上（南行）にある詰所は、多い時で20名近い乗務員が乗務合間の休憩や準備、食事を摂るなどを目的として利用しています。また、ホーム上に設置されているという強みを活かし、異常時には乗務員操配の面などで迅速に対応できるという利点があります。

●人が溢れる状態の中、詰所を減築すると説明



▲蒲田駅南行ホーム詰所（イメージ）

今ではジョブローテーションや兼務者の線見、新規運転士養成の期間が重なっていることも影響し、大田運輸区の本区を含め、蒲田駅にあるそれぞれの詰所は人が溢れています。

その中で、会社は「**大田運輸区と蒲田駅を結ぶ乗務員通路を新設するため、詰所を大幅に減築する**」と社員に説明しました。

【会社の主張】

- ・乗務員通路を新設することで、大田運輸区と乗継箇所へのアクセスが改善する。
- ・異常時に大田運輸区と乗継箇所との往来がしやすくなる。

⇒会社は乗務員通路建設の必要性をしきりに訴えている。

その②に続く⇒